

予報期間 12月13日から12月19日まで

1. アンサンブル資料

- アンサンブル(ENS)：期間のはじめはトラフが北日本付近を通過し、リッジが北日本付近に進む。期間の中頃はリッジが北日本付近を通過後、トラフが沿海州付近に進む。期間の終わりは、トラフが北日本付近を通過する。地上は、期間のはじめは低気圧が北日本付近を通過し、高気圧が日本付近に進む。期間の中頃は高気圧が日本付近を通過し、次の低気圧が日本海付近に進む。期間の終わりは低気圧が千島付近を東進する。
 - 500hPa基本場（週間予報支援図）：実況は、中国東北区～華中付近がトラフで、日本付近は西南西の流れ。全国的に正偏差。予報期間は、日本の南～沖縄付近にサブハイ(5880m)が張り出し、日本の東がトラフで、日本付近は西北西の流れ。全国的に顕著な正偏差に覆われる。
 - 15日：トラフが北日本付近を通過後、リッジが北日本付近に進む。地上は、低気圧が千島近海付近を通過後、高気圧が日本付近に進む。北日本と東日本の日本海側は、寒気の影響で雲が広がりやすく、北日本では雪の降る所がある。西日本と東日本の太平洋側は、高気圧に覆われておおむね晴れる。
 - 16日：リッジは日本の東に進み、次のリッジが沿海州付近に進む。地上は、高気圧は北日本付近に軸を残しつつ日本の東に進む。北日本は高気圧に覆われて晴れる所もあるが、東・西日本は高気圧後面となるため雲が広がりやすい。
 - 17～18日：リッジは日本の東に進み、トラフが中国東北区付近から千島近海付近に進む。地上は、前線を伴った低気圧が日本海を北東進して千島の東付近に進む。高気圧は日本のはるか東に中心を移すが、本州の南海上付近まで張り出し、日本付近は気圧の谷場となる。北～西日本は低気圧や前線および高気圧縁辺の湿った空気の影響で雲が広がりやすく、西日本と北・東日本日本海側中心に雨が降る。
 - 19日：寒冷渦がサハリン付近に進む。地上は、低気圧がカムチャツカ付近に進み、高気圧が日本の南に張り出す。日本付近は北日本中心の冬型の気圧配置となるが、関東沿岸にはシアーが残る。北～西日本の日本海側は寒気の影響で雲が広がりやすく雨や雪が降る所がある。太平洋側は高気圧に覆われて晴れる所が多いが、シアーの影響で雲が広がる所もある。
 - 沖縄・奄美：高気圧に覆われて晴れる日が多い。
- ・アンサンブル(ENS)/27メンバー：17日に低気圧を日本海付近、サハリン付近、北海道付近に予想するメンバーがそれぞれ約2割となっている（重複あり）。
 - ・スプレッド：昨日資料と比べて、2,6日目は拡大したほかは縮小。特定高度線は、期間の中頃以降5400m線のばらつきが大きい。
 - ・降水頻度分布：降水高頻度域は、18日の日本海沿岸と関東沖で拡大。
 - ・予想T850時系列：北日本の期間の終わり、東日本の期間のはじめに負偏差の日がある他は全国的に正偏差で推移。

2. 防災事項

- ・13日にかけては、北日本日本海側を中心に、発達する低気圧の影響で暴風や暴風雪、大しけとなるおそれがある。

3. 明後日予報（3時40分発表の短期予報解説資料も参照）

- ・500hPa5280～5400m付近のトラフは深まりながら、14日夜にかけて北日本を進む。低気圧が発達しながら北海道付近を進み、通過後は冬型の気圧配置となる。
- ・北海道では雪か雨、東北地方は日本海側を中心に雨か雪、東日本日本海側では雨が降る。西日本日本海側では雲が広がりやすい。
- ・東日本と西日本の太平洋側や南西諸島は、概ね晴れる。

4. 全般週間天気予報（案）

- ・北日本と東日本から西日本にかけての日本海側は、高気圧に覆われて晴れる日もあるが、低気圧や寒気の影響で曇りや雪または雨の日が多い。
- ・東日本から西日本にかけての太平洋側は、期間のはじめは高気圧に覆われて晴れる日が多いが、その後は気圧の谷や湿った空気の影響で雲が広がりやすい。
- ・沖縄・奄美は、高気圧に覆われて晴れる日が多い。
- ・最高気温と最低気温はともに、全国的に平年並か平年より高く、平年よりかなり高い所もある。